

2024.11.18

Dance Base Yokohama

世界に羽ばたく次世代クリエイターのための Dance Base Yokohama 国際ダンスプロジェクト“Wings”を開始 文化庁の支援を受け、日本のパフォーマンスアーツの国際発信を目指す

Dance Base Yokohama (DaBY)は、新プロジェクト「世界に羽ばたく次世代クリエイターのための Dance Base Yokohama 国際ダンスプロジェクト“Wings”」を始動します。本プロジェクトでは、日本のクリエイターが国際的なプレゼンスを向上することを目的とし、日本を代表するアーティスト、制作者、ドラマトゥルクや批評家の育成、作品の海外での上演、さらなる再演の機会創出を目指します。

プロジェクトの名称は“Wings”（読み方：ウィングス）と付けました。12名のクリエイターが、メンターや講師との対話や海外視察、見本市でのプレゼンテーションなどの研修を重ね、企画・創作・初演・海外発表・再演までのプロセスを体験します。この活動と同時に、DaBYが国際的に飛躍できる環境整備を行い、クリエイターの活動の場を広げていきたいという思いを表現しました。

尚、本プロジェクトは、文化庁による文化芸術活動基盤強化基金（※）におけるクリエイター・アーティスト等育成事業の【舞踊部門】で採択された3件の事業*のひとつです。5年程度の活動計画のもと、3年間にわたる弾力的かつ継続的な支援を得て活動を行います。

Dance Base Yokohama は、本プロジェクト遂行と同時に、健全な創作環境を構築し、持続可能なダンス環境を生み出す「フェアクリエイション宣言」の活動を継続し、国内外の観客・市場拡大に努めてまいります。

クリエイター

振付家・ダンサー |

阿目虎南、岩渕貞太、小野彩加、中澤陽、
柿崎麻莉子、鈴木竜、高橋萌登

批評家 | 植村朔也

ドラマトゥルク | 丹羽青人 (Dance Base Yokohama)

制作 | 神村結花、池田紗彩 (Dance Base Yokohama)

広報 | 田中希 (Dance Base Yokohama)

メンター

プロデューサー |

唐津絵理 (Dance Base Yokohama アーティスティックディレクター/愛知県芸術劇場 芸術監督)

塩谷陽子 (ジャパン・ソサエティー芸術監督)

ステファン・ノエル (MATERIALISE アーティスティック・エグゼクティブディレクター)

トニー・ミルス (Dance Base Edinburgh アーティスティック・ディレクター)

プロデューサー・制作 | 盛裕花 (株式会社アンクリエイティブ 代表取締役)


弁護士 | 東海千尋 (Dance Base Yokohama リーガルアドバイザー・弁護士)

文化芸術活動基盤強化基金（※）

文化庁令和5年度補正予算において措置された補助金により、クリエイター・アーティスト等の育成及び文化施設の高付加価値化のために行う事業を実施するため、独立行政法人日本芸術文化振興会に文化芸術活動基盤強化基金が設立されました。

こちらの基金により、次代を担うクリエイター・アーティスト等の挑戦・育成が支援されるとともに、その活躍・発信の場である文化施設の機能強化について、弾力的かつ複数年度にわたっての支援が行われています。

*ほかの採択団体は、公益財団法人新国立劇場運営財団、公益財団法人日本舞台芸術振興会（東京バレエ団）です。

助成:  文化芸術活動基盤強化基金（クリエイター等育成・文化施設高付加価値化支援事業）
| 独立行政法人日本芸術文化振興会

本プロジェクトの今後のスケジュール

横浜国際舞台芸術ミーティング（YPAM）への参加

■12月5日(木) 16:00-16:40 | 会場：男女共同参画センター 横浜南 フォーラム南太田
YPAMエクステンジ ミーティングポイント1
プレゼンテーション「DaBYと共に創る: アーティストと作品の紹介」

■12月7日(土)～9日(月) | 会場：KAAT神奈川芸術劇場 〈ホール〉
愛知県芸術劇場×Dance Base Yokohama
「パフォーミングアーツ・セレクション 2024」神奈川公演 [YPAM連携プログラム]
DaBYで創作、愛知県芸術劇場「間(あいだ)の時間」で初演した新作と再演作品を2プログラムで上演

■12月10日(火)17:00～18:30 | 会場：Dance Base Yokohama
DaBYレセプション
国内外のディレクターやアーティストとの交流会を実施

■12月11日(水) | 会場：Dance Base Yokohama
DaBYショーケース①
愛知県芸術劇場とDance Base Yokohamaが連携して3作品を上演

■12月12日(木) | 会場：Dance Base Yokohama
DaBYショーケース②
愛知県芸術劇場「間(あいだ)の時間」で初演した『TAMA』の上演及びDaBYの事業概要を紹介

■12月13日(金)11:00～11:40 | 会場：横浜市開港記念会館
YPAMエクステンジ ミーティングポイント2
プレゼンテーション「日本の舞台芸術作品のディストリビューションにおける課題と展望」

プロジェクト対象作品のダンサー募集ワークショップ/オーディション情報

【終了】 ■高橋萌登 〈MWMW〉 新作クリエイションに向けてのワークショップ
「ジャンルを超える深化ワークショップ」
日程：2024年11月17日(日)18:30～20:30
詳細・申込方法：https://dancebase.yokohama/event_post/mototakahashi-ws

■柿崎麻莉子2025年新作オーディション
日程：2025年1月5日(日)13:00～15:30
詳細、時間は決定次第ウェブサイトにて発表いたします

■阿目虎南 / 新作『R/evolution(s)』クリエイションワークショップ/オーディション
日程：2025年3月24日(月)～29日(土)
詳細・申込方法：https://dancebase.yokohama/event_post/conanamok-newwork2025
※3月29日(土) 17:30-18:30 ショーイング実施

クリエイタープロフィール



©Mai Taniguchi

阿目虎南 Conan Amok <振付家・ダンサー>

DaBYレジデンスアーティスト。振付家・ダンサー。燦然CAMP主宰。A5yl/燦然光芒芸術監督。2010年、武蔵野美術大学彫刻学科卒業。大駱駝艦に所属(2008-2019)、磨赤兒に師事。ソリッドかつ緻密な身体性、メタ的でありながら熱狂を伴うダンス作品を制作。現象学・彫刻的視座に基づく舞踏技術「Multi layered body」を研究実践し、国内外でWSや公演を行う。また、舞台・ドラマ・映画・PV・CM等多数出演。Butoh Lab Camp講師(2023) 武蔵野美大特別講師(2023)などを務める。



©野村佐紀子

岩淵貞太 Teita Iwabuchi <振付家・ダンサー>

DaBYレジデンスアーティスト。玉川大学で演劇を専攻、平行して、日本舞踊と舞踏も学ぶ。2007年より15年まで、故・室伏鴻の舞踏公演に出演、今日に及ぶ深い影響を受ける。05年より、「身体の構造」「空間や音楽と身体の相互作用」に着目した作品を創りはじめる。10年から、大谷能生や蓮沼執太などの音楽家と共に、身体と音楽の関係性をめぐる共同作業を公演。12年、横浜ダンスコレクションEX2012にて、『Hetero』（共同振付：関かおり）が若手振付家のための在日フランス大使館賞受賞、フランス国立現代舞踊センター(CNDC)に滞在。自身のメソッドとして、舞踏や武術をベースに日本人の身体と感性を生かし、生物学・脳科学等からインスパイアされた表現方法論「網状身体」開発。玉川大学非常勤講師。急な坂スタジオレジデントアーティスト。



Photo by Dan Bellman

小野彩加 中澤陽 スペースノットブランク Ayaka Ono Akira Nakazawa Spacenotblank <振付家・ダンサー>

2024年度DaBYレジデンスアーティスト。二人組の舞台作家・小野彩加と中澤陽が舞台芸術作品の創作を行なうコレクティブとして2012年に設立。舞台芸術の既成概念と、独自に研究開発する新しい仕組み(メカニズム)を統合して用いることで、現代に於ける舞台芸術の在り方を探究し、多様な価値創造を試み続けている。固有の環境、関係から生じるコミュニケーションを創造の根源として、クリエイションメンバーとの継続的な協働と、異なるアーティストとのコラボレーションのどちらにも積極的に取り組んでいる。



©Yurie Nagashima

柿崎麻莉子 Mariko Kakizaki <振付家・ダンサー>

DaBYレジデンスアーティスト。香川県出身、元新体操選手。Batsheva ensemble Dance Company (2012-2014) に所属後、L-E-V Sharon Eyal|Gai Behar (2015-2021) に所属し、世界各国で公演・WS指導を行う。2011年韓国国際ダンスフェスティバル金賞、2013年度香川県文化芸術新人賞、2014年Israel Jerusalem Dance Week Competition、2020年日本ダンスフォーラム賞、2021年日本ダンスフォーラム賞、など受賞。2021年カルチャーセンター「beq」を熊本にOPENし、文化や芸術をカジュアルに楽しめる場を目指して活動中。「GAMAMA」を主催し、オンラインWSなどを実施。Gaga指導者。



©Takayuki Abe

鈴木竜 Ryu Suzuki <振付家・ダンサー>

DaBYレジデンスアーティスト/DaBY国際関係担当。2020年～23年度DaBYアソシエイトコレオグラファー。21年、愛知県芸術劇場にてコロナ禍で現代社会における「身体の不在」をテーマに3つの新作を発表。22年、インド、国内で再演を重ねたほか、欧州文化都市リトアニアのコンテンポラリーダンスカンパニーAURA Dance Theatreから委嘱を受け、『Proxy』の改訂版『Esybè』を振付。23年、愛知県芸術劇場×DaBYダンスプロジェクトにて『Rain』を現代美術作家の大巻伸嗣、サウンドアーティストのevalaとともに創作。国内4ヶ所、香港のNew Vision Arts Festivalにて上演する。同年、「大巻伸嗣 Interface of Being 真空のゆらぎ」(国立新美術館)にて、パフォーマンスへのディレクション/出演を担当。



高橋萌登 Moto Takahashi <振付家・ダンサー>

長野県出身。幼少よりクラシックバレエを始め、2011年から東京ELECTROCK STAIRSのメンバーとして活動。13年より創作活動を本格化し、ソロ作品で Rencontres Choregraphiques Internationales de Seine- Saint-Denis、Festival Fabbrica Europaなど海外フェスティバルに多数招聘。17年、ダンスカンパニーMWMW(モウイモウイ)を設立。これまでに培ってきた表現やテクニックを凝縮したオルタナティブダンスをモットーとし、振付のみならず映像・音楽・ビジュアルデザインまで手掛け、独自の世界観を演出している。横浜ダンスコレクション2021で、審査員賞と城崎国際アートセンター賞をW受賞。ダンスグループMWnoズで、かながわ短編演劇アワード2022グランプリ受賞。24年、カンパニー初の海外ツアーをアメリカ2都市(NY/Chatham)で行った。



植村朔也 Sakuya Uemura <批評家>

批評者。1998年12月22日生まれ。東京はるかに主宰。千葉県出身・在住。スペースノットblank保存記録。過去の文章に「柴幸男 劇場の制作論」「その手のもとに「劇場」はある」(演劇最強論-ing webサイト掲載)「質問の陥穽 あるいは、透明性の時代」(スペースノットblank公式サイト掲載)など。PARAにて「ドラッカーを読んで上演をつくる、集団をつくる」「「ドラマトゥルクの今日(The Dramaturg, Today)」(国際誌『Sound Stage Screen』掲載、英語、2021年)を読む」開講。DaBY ProLab 第1期 乗越たかおの”舞踊評論家【養成→派遣】プログラム”に参加し、スプリング・フォワード取材のため、開催地ダルムシュタット(ドイツ)へ派遣される。



©Takayuki Abe

丹羽青人 Haruto Niwa <ドラマトゥルク>

1996年、愛知県生まれ。6歳からクラシックギターを学ぶ。2021年より現在まで、DaBYに在籍し制作およびドラマトゥルクを行う。近年の主な参加作品として、愛知県芸術劇場×Dance Base Yokohama パフォーミングアーツ・セレクション2024で初演を迎える『ポスト・ゴースト』(演出：ハラサオリ、振付：小暮香帆)、同パフォーミングアーツ・セレクション2023『Can't-sleeper』(演出・振付：柿崎麻莉子)、『Until the Bread is Baked』(演出・振付：木ノ内乃々)、『PreDanceMusic』(発案：藤村港平)など

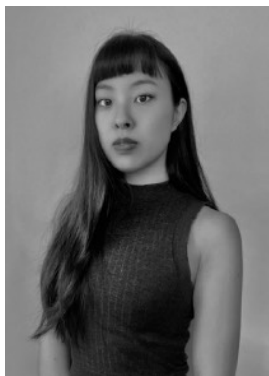


神村結花 Yuka Kamimura <制作>

横浜生まれ。横浜市立大学 国際総合科学部 国際教養系卒業。

4歳よりクラシックバレエをはじめ、ダンサーを志すも、国内における芸術体験を日常の身近にすることをめざして、キャリアを変更。現在、Dance Base Yokohamaにて制作・広報を務めている。

2021年、日頃の芸術活動の成果として横浜市立大学の「YCU Student Award」を受賞。共著に『コロナ禍を生きる大学生—留学中のパンデミック経験を語り合う』（昭和堂）。



池田紗彩 Saaya Ikeda <制作>

東京外国語大学卒業後、外資広告代理店に入社、SNS広告運用を担当。ダンスを通じた異文化理解や多文化共生に興味を持ち、舞踊の道に進むため退社。渡欧し、大学院に進学する。Erasmus生としてEUから奨学金を貰いながら、日本人として初めてChoreomundus修士プログラムを修了、舞踊人類学の修士号を取得。卒業後はNPO法人What Dance Can Doの研究者として、ノルウェーを拠点にヨーロッパ諸国で働く。2024年4月に帰国しDaBYに入社。制作業務を担当し、踊りとコミュニティ形成をテーマに活動が続ける。



田中希 Nozomi Tanaka <広報>

お茶の水女子大学文教育学部言語文化学科仏語圏言語文化コース卒業。

幼少期からダンスに親しむ。大学卒業後、航空会社で客室乗務員として国内外の路線に乗務。その後、地域創生に関わるIT企業にて広報を担当。在職時より日本国内におけるダンスの普及発展に興味を持ち、退職後、Dance Base Yokohamaの立ち上げに参加。オープン時より、DaBY制作および広報マーケティング業務に携わる。これまでの主な担当として、愛知県芸術劇場×DaBYダンスプロジェクト 鈴木竜×大巻伸嗣×evala『Rain』、愛知県芸術劇場とDance Base Yokohamaで企画制作・招聘を行ったKIDD PIVOT2023日本公演、NDTプレミアム・ジャパン・ツアー2024など。

©Takayuki Abe

メンタープロフィール

唐津 絵理 Eri Karatsu <プロデューサー>

DaBY アーティスティックディレクター

愛知県芸術劇場 常務理事 芸術監督 (アーティスティックディレクター)

お茶の水女子大学文教育学部舞踊教育学科卒業、同大学院人文科学研究科修了。舞台活動を経て、1993年より日本初の舞踊学芸員として愛知芸術文化センターに勤務。2003年に所属の愛知県文化情報センターで第1回アサヒ芸術賞受賞。2010年～16年あいちトリエンナーレのキュレーター(パフォーミング・アーツ)。大規模な国際共同製作から実験的パフォーマンスまでプロデュース、招聘した作品やプロジェクトは200を超える。また愛知県発信の国内外ツアーを多数開催、最近ではフランス、香港、アメリカ等の劇場やフェスティバルから招聘された。講演会、執筆、アドバイザー等、日本の舞台芸術や劇場の環境整備のための様々な活動を行っている。著書に『身体の知性』等。

2023年3月、令和4年度芸術選奨文部科学大臣賞 芸術振興部門 大臣賞を受賞。

2024年7月から常務理事 芸術監督 (アーティスティックディレクター)。

塩谷陽子 Yoko Shioya <プロデューサー>

東京藝術大学音楽学部楽理科卒。1988年の渡米を機に朝日新聞をはじめ多くの活字メディアに芸術文化の定期コラムや舞台芸術批評の執筆を開始。2003年よりジャパン・ソサエティー (JS) の舞台公演部部长、2006年より舞台芸術部門と映画部門を統括する芸術監督に就任。以来、日本の舞台芸術の公演をJS内劇場にて主催する他、北米ツアーのプロデュース、非日本人アーティストへの新作委嘱、現代戯曲の英語リーディング・シリーズなど新規事業を立ち上げる。ロックフェラー財団MAP助成、ニューヨーク・ベッシー賞、ローレックスMentor & Protégé Arts、ハーブ・アルパート芸術賞など、舞台芸術に関する様々な表彰や助成プログラムの審査員等を歴任。2019年ベッシー賞にて「Outstanding Curating」を受賞。2023年、台湾の文化省より「文化交流勳章」を、2024年、日本で外務大臣表彰をうける。

ステファン・ノエル Stéphane Noël <プロデューサー>

コンテンポラリーダンス、音楽、演劇のプロデューサー・キュレーター。近年は、アジアのアーティストを中心に育成と制作支援を行い、またPro Helvetia (スイス)、セゾン文化財団 (日本)、韓国文化芸術委員会 (韓国)、シンガポール国立芸術協議会 (シンガポール)、台湾国家文化芸術基金会 (台湾) などの各国の国際的なプラットフォームへの参加を通じて、アジアとヨーロッパ間の文化的交流を試みている。ヨーロッパ各国のフェスティバル等でディレクターやキュレーターを務め、プラットフォームやショーケース、ネットワーキング・イベントのプロデュースも行う。

トニー・ミルス Tony Mills <プロデューサー>

2021年よりDance Base エジンバラのアーティスティックディレクター。約20年にわたりスコットランドでプロのダンス・アーティストとして活動してきた経験を活かして、スコットランド全土でダンスを体験してもらい、この地を拠点とするダンスアーティストの国内外での成功を築くというDance Baseのビジョンを実現に向けて活動を行う。

ダンスカンパニーや商業公演の創作、制作、ツアーに携り、ダンスアーティストが直面する課題を理解し、ダンスを健康、幸福、コミュニティの源として、より多くの人々をダンスに引き込む活動を行う。常設のレジデンス機能を持つRoom 2 Manoeuvre (R2M) の元アーティスティック・ディレクター。

盛裕花 Yuka Mori <プロデューサー・制作>

株式会社アングリエイティブ代表取締役/シルクドソレイユキャスティングパートナー/2024年10月よりDaBYジェネラルマネージャー。1987年共同代表の永利真弓とアングリエイティブを設立、91年法人化。国内でのダンスフェスティバルやCJ8(カナダ/ジャパンダンスコラボレーション)を始め、多くの国際交流事業の企画運営を行う。自主事業として20年継続したダンスシリーズ、ニューヨークで10年継続した邦人ダンスアーティストを紹介する「Japanese Contemporary dance showcase」等幅広く、ダンス界に貢献。2008-09年、公益財団法人セゾン文化財団 助成事業 アドバイザリーボードメンバー。19年のネザーランド・ダンス・シアター(NDT)招聘以降、21年イスラエル・ガルバン、23年KIDD PIVOT、24年NDTの愛知県芸術劇場とDaBYによる共同公演のインターナショナル・コーディネーターを担当。

東海千尋 Chihiro Tokai <弁護士>

2009年中央大学法科大学院卒業後、同年司法試験に合格し10年12月弁護士登録。法律事務所で企業法務実務経験を積んだのち、株式会社リクルート法務部でビジネスに伴走する法務業務に従事。17年に渡米し20年に帰国した後は、Dance Base Yokohamaのリーガルアドバイザーを務める傍ら、スタートアップ企業の法務担当役員としてIPO準備業務を経験した。

現在は、CoWORK法律事務所を開設し、バレエ・ダンスなど舞台芸術関係のビジネス支援・法務支援を行っている。2024年から早稲田大学大学院経営管理研究科(MBA)に在籍中。

Dance Base Yokohama

ダンスを中心とするパフォーマンスアーツ作品の創作を目的に、地域や文化芸術を愛する方のために開かれたダンスハウスとして2020年6月横浜を拠点に設立された。ワークショップや実験的なトライアウト公演の企画・運営、海外アーティストやカンパニー招聘、ダンスアーカイブ事業などを行い、振付家やダンサーのみならず、さまざまな分野のクリエイター、批評家、研究者、プロダクションスタッフ、そして観客の交流拠点をめざしている。

一般財団法人セガサミー文化芸術財団が運営し、アーティストックディレクターを唐津絵理(愛知県芸術劇場常務理事 芸術監督)が務める。ダンス、パフォーマンスアーツ領域全体の活動環境の整備、アーティスト・ダンサー・スタッフの権利擁護、観客・市場拡大施策等を展開する。2023年5月に健全な創作環境を構築するため、「フェアトレード」の考え方を応用したDaBY独自の概念「DaBYフェアクリエイション宣言」を発表。

2020年「ダンスを社会にひらく」コンセプトが評価され、2020年度グッドデザイン賞受賞。2021年ロゴマークが東京TDC賞2021に入選。2023年、アーティストに作品創作の場を提供して、実験的なプログラムを企画し、社会にひかれたダンスハウスとして多様な人々の交流を促進し、ダンス文化の発展と改革に向けて挑戦している点が評価され「メセナアワード2023」メセナ大賞を受賞。